

## 「第2期こおりやま広域連携中枢都市圏ビジョン(案)」にお寄せいただいた御意見等と(実施機関)の考え方

受付番号	御意見	(実施機関)の考え方
1	<p>1 少子高齢化は、地方ほど深刻な問題であり、その中でも、後継者がいないこと。これについては、地元信金との連携が必須。攻める行政ではなく、ディフェンスの強化の方が有効であると考えます。</p> <p>2 人の動線を考えること。例えば、新幹線で郡山に来た、或いは、福島空港に着いたとして、人はどこに向かうか？その大半は、会津地方です。実際、パッケージツアーは、そのようなコースになっています。</p> <p>3 インバウンド需要を見込めるか？今の海外からの旅行者は、既にSNSを通して、日本についてもよく知っています。彼らは、それを実際に見てみたい、体験してみたいとの動機で来日している。郡山近郊に、そのようなところが見当たらない。</p> <p>確かパブコメでは、伝統文化や行事を掲げていたが、今や、例えば、伝統的なお祭りの後継者すら減少し、従来のような催事はできない。</p> <p>また、ウルトラマンなども、地元なら分かるが、世界は、日本のアニメに興味があり、スラムダンクやワンピースの聖地巡礼が目的である。</p> <p>4 海外からの移住者を増やすことができるか？これは、既に海外から移住した者が、不動産産業を起業し、紹介するケースが増えている。人気なのは、日本ならではの古民家。しかしながら、郡山近郊には、これこそ日本というものがない。</p> <p>このようなことを勘案した上で、意見するなら、</p> <p>1 あらゆる資格を取得できる街。</p> <p>今や学歴社会に在らず。資格がものをいう時代になる。そのための専門学校の誘致又は、通信教育の支援。</p>	<p>圏域全体の経済成長のけん引では、小規模事業者や中小企業の持続的な発展の支援、観光・交流分野での連携したプロモーション活動、インバウンド促進、農業分野における連携強化、農業DX対応等による生産性の向上や高付加価値化の推進を位置付けております。</p> <p>高等教育機関等との連携推進では、圏域内の産業の振興、地域人材の育成を位置付けております。</p> <p>圏域全体の生活関連機能サービスの向上では、地域の振興とともに地方への新しい人の流れをつくるための移住・定住関連事業、圏域職員の相互交流による資質向上、圏域全体での「人財」育成を位置付けております。</p> <p>いただいたご意見は、こおりやま広域圏の取組推進の参考とさせていただきます。</p>

	<p>生涯学習の一環として、中小企業診断士等、現居住者にも役立つ環境と経済的補助。</p> <p>2 農業のDX化の強化。</p> <p>これは、農地法の規制があって、簡単には後継者は現れない。であれば、DX化して簡素化すれば良い。具体的には、水耕栽培など。</p> <p>それにより、自然の影響を抑制し、かつ可視化することで、これまでの経験主義ではない農業が可能になる。</p> <p>3 職員採用枠として、Iターン、Uターン等、県外からの中途採用を積極的に実施して、新たな観点を取り入れるべき。</p> <p>4 移住者の促進なのか、それともお金を落としてくれる地域にするのかは、両立ではなく、一択に絞るべき。</p>	
2	<p>自然災害に備えてあらゆる想定をし、準備しておくことが最も重要だと感じました。しかし、一個人や一企業ではやれる限界があると思います。東日本大震災でも必要になったのが食料、水、発電機、仮設住宅と様々な物が必要でした。そういった物を届けるにはインフラを整えることが最も重要だと思います。そこで、この郡山市は県の中心に位置しており、東北自動車道、磐越自動車道のジャンクションがあり、東西南北からアクセスできる利便性の高い立地だと思います。これからの考え方としては、郡山をはじめとして須賀川市、本宮市と連携して物流の拠点に大きく向かうことが役割だと考えます。そのためには陸海空を首都直下型地震や南海トラフ地震に備えて、補完的な役割を果たせるよう整備していくことが郡山、福島、日本を救うことになるかと確信しています。人が人を救う考え方になって、地の利を生かしたこの郡山の整備を心から願っております。</p>	<p>「誰一人取り残されない」SDGsの理念のもと、人・モノ・情報が行き交う本圏域の強みを最大限に生かし、圏域経済の成長を加速、地域企業のBCP策定やサプライチェーンの持続可能性を高めることや圏域内外を結ぶ鉄道網や福島空港などの交通網の充実と利活用の推進、災害発生時の相互支援などの地域防災力の向上を位置付けております。</p> <p>物流の確保について、いただいたご意見を反映し、災害に強いまちづくりを推進してまいります。</p>